



天文同好會觀測部月報

流星課だより

課長 小 横 孝 二 郎

秋もたけなはになつて來た。夜の觀測もだんだん苦痛になつて來やう。十月はオリオン座流星群、双子座流星群があるが、最盛期の二十一二日頃は夜半すぎに月が沒する爲め觀測は好都合であらう。其の他著しい出現を豫想し得る流星群はない。

× × × × ×

次に六月以降の觀測状況の概要をのべる。鹽見君がシヴスマン彗星による流星群の觀測をされた事は八月號で報じたが、極大後も20日頃まで追跡された。下保氏もよく奮闘され數個の輻射點を獲得された。

七月は近年にない悪天候、特に中旬から下旬にかけては雨又雨の連続で、流星課の不景氣振りと言つたら！實にみじめなものであつた。ペルセウス流星群の前驅など觀測されたものはなかつた。

八月に入つて天候漸く改まり、中旬以後は概ね晴夜つゞきでペルセウス流星群の觀測には好都合であつた。八月の觀測は自分の手許にまだ到着してゐないので全般的の事は云へないが、北海道班、近畿班、中國四國班、九州班では夫々幾組かの同時觀測も計畫された事だから、豫想外の好結果が得られるかも知れない。

次に六月及七月の觀測者、觀測回数、時間數を掲げる。

観 測 者	観 測 地	六月観測回数	同時間数	七月観測回数	同時間数
小横孝二郎	和歌山縣金屋	6	180分	1	25分
天野吉郎	函館市	4	178	4	176
齋藤平八郎	函館市	4	329	2	117
山田 長	山口縣小郡	2	120		
廣瀬永治郎	岐阜縣美濃町	4	170		
下保 茂	札幌市	5	598	1	15
阪元鐵馬	福岡縣箱崎	7	295		
鹽見幸三	京都府福知山	4	125		
荒木健兒	倉敷天文臺	1	20		
麻生佐七郎	大阪市	4	145	3	125
渡邊慶一	千葉縣北條			1	15
能勢繁生	京都府何鹿郡中筋			2	62

其他下記の方々の大流星観測報告があつた。

佐藤米茂，森下功，日野要，下保茂，麻生佐七郎，荒木健兒，小川龍五郎，石井眞之助

上記の中印は七月30日午後九時二十八分に出現した一大火球の報告であるが観測が不充分なる爲経路の充分な推定が出来ない。(8.20記)

太 陽 課 よ り

永らく御無沙汰致しましたが，しかし全國の會員たちから相變らず太陽黒點の観測報告を澤山送つて下さることを感謝します。實は目下此等の観測の整理中で，かねて報告しました通り，1926年度から1930年度まで，前後5ヶ年間の計算をやつてゐます。近いうちに終つて發表したいと思つてゐます。しかし，毎月々々全國から送つて頂く御報告については，只今まで観測者一人々々に受取り狀と御禮狀とを差し上げてゐましたが，これだけでは観測者相互の様子もわかりませんし，又，黒點の現はれ方につき，時々皆様の御注意を呼び起したい事もありますので，今月以後，此の観測部欄で，必ず記事を載せたいと思ひます，

1926年以來，我が同好會員で太陽黒點を毎日観測してゐて下さつた方々は次の通りです。

氏 名	住 所	口 徑	倍 率	望遠鏡(方法)
三澤 勝 衛	長野縣上諏訪	73耗	83倍	屈折(眼視)
柴田 淑 次	京都花山天文臺	100	71	反射
服部 一 英		40	50	屈折
田 中 鐵 馬	福岡市外箱崎町工科前3808			
津田 雅 之	大阪市濟美第三小學校	40	15	
神戸 支 部	神戸市	50		
廣瀬 秀 雄	姫路市福中町36	45	40	
水野 千 里	岡山市門田21	75	75	
白根 治 一	札幌市北八條西四丁目中西方			
淺野英之助	(山口高等學校)島根縣津和野町濱田	60	47—94	
長田 光 二	大阪市東區紀伊國町920	110	50—70	(死亡)
市岡中學校觀測部	大阪市港區	110	55	
壽岡 貞	鳥取市東町御宮谷	40	20	屈折
龜井 壽 彦	大分縣臼杵町市濱	55	64	屈折(直視)
坂本 氏	鳥取市東町	75		
岩井正太郎	北海道帶廣			
木邊 成 磨	滋賀縣野洲郡中里	73	60	反射(メツキなし)
小松 昌 之	長野縣東築摩郡坂北校	85	43	反射
日野 要	松山市師範校	100	—	
佐藤 米 茂	島根縣濱田町辻町			
宮本正太郎	姫路市柳山伏73吉川方	58	64	
伊吹 高 峻	東京府駒澤町上馬引澤46	38	34	
岩崎 恭 平	東京府玉川村瀬田	50		屈折
濱田 義 郎	大阪市西區新町南通五丁目4	20	5	(投影)
今 津 績	金澤市上野町178鷹栖權次郎方	83	39	反射(一)
渡邊 慶 一	大津市下平藏町20	60	40	反射(投寫)
伊達英太郎	大阪市南區南炭屋町31	36	55	屈折(直視)
滿洲 支 部	奉天, 教育專門學校			
山田 長	山口縣小郡町金池鐵道官舎井戸方	75	48	反射
改發 香 塙	神戸市西須磨下小神	150	68	屈折(眼視)
佐々木 正	京都市大宮松原下ル奥村電機商會	42	44	
山崎 幸 夫	大阪府中河内郡龍華町安中216	85	45	反射
日野 勝	愛媛縣伊豫小學校	40	50	

最近に、1931年八月中の觀測報告を次の方々から頂きました。

三澤、改發、伊達、佐々木、山田、木邊。

太陽は愈々静かになつて了ひましたが、しかし、九月に入つて急に珍らしくも二三の大きい黒點が現はれ、倉敷天文臺の荒木氏が新聞に發表されたりして、世間の注意を呼んでゐられます。全く珍しいことです。しかし、こうした事は今後益々少なくなりませう。何と言つても1934年までは黒點は衰へるばかりです。しかし、黒點個々の性質、殊に地球に及ぼすいろいろの影響などは、却つて今のやうに黒點の少ない時の方が研究には便利なのですから、決して失望なさらず、むしろ油斷なく、大に奮つて御やり下さるやう願ます。(英子)

彗星課より

長田彗星の発見について

最近報によると、かの長田政二氏が発見した長田彗星は、去る七月15日午後8時30分(加州時間)に発見されたものである。初め、長田氏は80耗の望遠鏡で、30倍の倍率により、海王星を見てゐたが、ふと其の近くに星霧らしいものを見つけ、變なものだと怪みついある間に、之れは地平線に没して了つた。翌16日之れを見た所が、其の天體は東北方へ約 1° も運動してゐたので彗星らしく思つた。しかし、光度は略7等級であるし、こんなものが他の天文家に知られてゐない筈は無いと考へ、念のためキルソン山天文臺へ聞き合して見たのに、其れは未だ知られてゐないといふ返事であつた、

そこで、氏は位置を詳しくキルソン山へ知らせ、専門家の観測を依頼したのであつた。

日附(世界時)	赤 徑	赤 緯	光度	尾	注 意
7月16日 4時30分	—	—	—		星霧らしきもの
17 4 $\frac{1}{2}$	—	—	7		東北へ動く彗星
18 4 26	10h41m s	+9 $^{\circ}$ 48' $\frac{1}{2}$			Moore (Wilson山)
*18.1792	10 40 44.7	+9 50 57		4 $^{\circ}$	Nicholson ($\frac{1}{2}$)
19.1861	10 45 6.0	+9 54 46		4	$\frac{1}{2}$ ($\frac{1}{2}$)
*20.1795	10 49 22.3	+9 58 12	7-8	4	$\frac{1}{2}$ ($\frac{1}{2}$)
*22.2004	10 57 56.3	+10 4 27	9		Jeffers(Yerkes)
23.1157	11 1 46.1	+10 6 50	7		Van B. (Lick)

キルソン山天文臺では七月17日にモリア G. Moore 氏が寫眞によつて之れを観測し、其の後、リク、ヤークース等の天文臺でも之れを観測したのであつて、最初の観測結果を並べて見ると、前記の表の通り。

上記の表の*印のものから、Zug, Berman 兩氏が最初の拋物線軌道を計算したのである。

本年度第三彗星について

去る八月中旬、本年度の第三彗星が Ryves 氏によつて發見されたことを前號に報じたが、あの報導には多少の誤りがあることが明らかになつた。Ryves といふ名は平素聞かない名であるし、最初の観測が米國ヤークース天文臺で行はれてゐるので、Ryves 氏も、米國のアマチュアかと思つたのだが、後に知れたことは、Ryves 氏が英國人でスペイン國ザラゴサ市大學天文臺の人である事である。之れは最近 Stroobant 氏が編した世界天文臺一覽其の他にて知れた。

因みに、此の大學天文臺は、ルイス G.G. Ruiz といふ人が球面天文學の教授で、クック製13種の赤道儀と、カルヴァ製26種の反射鏡を有し、變光星や遊星表面の観測をやつてゐる。

ライヴス Ryves 氏は、最初、八月10日夕刻コペンハーゲンへ彗星發見の電報を打ち、次いで12日にも電報で位置をコペンハーゲンへ知らせた。此の電文が普通の書き方と違ふので、コペンハーゲンでも狼狽したらしいがとにかく、下の如く之れを意味づけた。

日附(世界時)	赤 徑	赤 緯	光 度
8月10日3時30分	7h43.0m	+23°48'	—
12, 4 ^h	7 52.0	+24 19	5.5m

ところが、八月13日と15日とに、Ryves 氏は又下の如き電報をコペンハーゲンへ送つた。

13日, Buskin Ryves mipalone fodaship stop babble mofament fofimate fatilege
honurant Ryves

15日, Better position babble mokamofo forejekt fazaglow helmet mother faterkin
fatanex Ryves

この電報は、米國のハワード天文臺のゲリシ Gerrish 教授が考案した

暗号電報であつて、コペンハーゲン天文臺では此の暗号の意味が知られてゐなかつたため、止むを得ず、暗号のまゝで、サキキュラに發表した。

しかし、この暗号は米國では時々用ゐられるものなので、ヤキース天文臺では其の意味を解したらしい。とにかく、八月十四日には、ヤキースのヴンビースブルック教授が此の彗星を首尾よく観測し、之れが17日頃、我が日本へも知らされて來たのである。

因みに————

彗星界が賑やかになつたので、(また、我が會員中から將來に新彗星の発見者が出るかも知れないので)、上田博士に乞ふて、天文電報の方法と、其の暗号の種あかしなど、天文界の「ブラック・チェンバ」を書いて頂きました。かなり長いものですが、次號に載せます。

黄道光課より

古川庄二郎氏の努力により、スバラシイ黄道星圖が出来上りました。元々、小山荒木兩氏の發案のものを、稻葉山本中村諸氏の校閲によつてモダン化したのです。世界無類の品です。十月からは此れによつて、課員はウンと御奮勵下さい。それは、本當にスバラシイものですよ。

又、少々遅れて居りましたが、今まで通り、黄道光の公的發表は、花山のブレテンによつて出版することに定め、既に去る1930年十一・十二月分はブレテン第208號に、又本年一・二月分は同第212號に印刷されました。以下ドシドシ續表します。何と言つても、観測部の中で黄道光課が最も威勢がよろしい。

広島で開かれる本年度總會

目下着々準備中。但し、プログラムは本號の間に合はず。次號を御待ち下さい。時期は十一月下旬です。

天 文 同 好 會